

ごあいさつ

ここ豊川海軍工廠平和公園のある場所は、かつて東洋一の兵器工場とも称された豊川海軍工廠があった場所で、兵器生産の場として戦争の一舞台でありました。その結末は、終戦間際の昭和20(1945)年8月7日の大空襲で工場は壊滅的な被害を受け、多数の犠牲者や負傷者を出し、悲しい出来事として戦後人々の記憶に残り、語り継がれてきました。

さて、戦後日本は、世界各地で戦火が絶えない中、過去の経験を礎とし平和国家の道を歩み続けてきました。これは戦争の時代を経験し、また身近に感じてきた人々が、実体験として戦争がもたらした悲劇や苦しみを繰り返さないという意味によるところが大きいと思います。しかし、戦争が身近な存在でない人々が大多数となった現在において平和の尊さについて考えるには、一人ひとりが過去の歴史と向かい合い、そこから何かを学び考えることが大切だと思います。戦後の日本に生まれ育ってきた人間にとって平和であることは当たり前に感じますが、世界各地では紛争が絶えず、過去を振り返れば昭和の前半期には日本も戦争の渦中にありました。今の平和な世を未来へと引継いでいくには、今の時代を生きる我々が過去の歴史を学び、平和を愛する心を育てることが大切ではないでしょうか。

豊川市平和交流館では、豊川海軍工廠の関係資料や写真、体験者の証言などを、その時代を振り返りながら紹介します。歴史の生き証人である公園内の戦争遺跡も含め、豊川海軍工廠とかつての戦争について学んでいただき、平和について考える一歩となれば幸いです。

豊川市平和交流館